

心に響く「いのちの話」

生かされている自分を
思い、一途に笑顔で、
人生出発です。

岐阜聖徳学園大学教授

玉置 崇（愛知県）



誕生日、ゼミ生とともに。今日も笑顔で発信です！

長年、中学校長・教育事務所所長・大学教授と教育の道を一途に歩んできた。優れた教師を育てることを信条に、年間一五〇回の講演、月間三本の原稿発信をするなど、日本の教育界を導いている。笑いと教育落語も国宝レベル。

二〇二四年三月、大学での会議中に気を失い、病院へ救急搬送された。心臓の冠動脈バイパスの緊急手術を受けた。

「胸を開いて手術、体に九本の管が繋がれました。いのちを失う可能性もあったと知り驚きました。もし運転中なら、もし出張先のホテルならと思うと、本当に運が良かった…。」

“生かされた自分、生かされている自分”を心底感じました」

二〇二五年二月。教師として旅立つゼミ生に、絵本「6さいのおよめさん」を贈り伝えた。

「まず、学生に自分の大手術経験を話し、健康の大切さを伝えました。いのちを失っていたら今はない。学生を無事送り出すことがなにより、神様に感謝です。」

愛される人になってほしい。これから様々なことが起こるが、自分にとって必要であり、必然であり、ベストであると捉えてほしい。

そして、絵本を贈りました。学校で子どもたちへの『いのちの授業』に活かしてほしい。自分自身も『生きる・いのち』をみつめてほしいと願っています」

六月、次のステージへの決断をSNSに投稿した。

「私事で恐縮ですが、本年度をもって大学を退職します。来年度からは、講演や指導助言、原稿執筆などのご依頼に、これまで以上に全力でお応えしていく所存です。」

今後は、皆様とのご縁をより大切にしながら活動してまいります」

「もう私も若くはありません（笑）。限られた時間、生かされている自分を思い、人生の恩返しをさせてもらえればと思います。」

実は、校長も定年前、大学も定年前に退職です。中学生から落語一途、愛狂亭三楽（玉置先生の芸名）らしく笑顔で人生出発です」

十二月、大学で「いのちの授業」を主催した。一限目は講演、二限目は「いのちへの思いや生き方」を対談を通して学生に伝えた。

「みなさんは、将来、教師として子どもたちに『いのち』を教えます。子どもの自殺者数は五百人を超えています。」

人との出会いを通じて、いのちに向き合い、自分を内省する。そして、自分なりに、『生きる』を導く『いのちの授業』を子どもたちに届けてあげてください」

玉置先生の人生出発に大エールです。

◎講演や執筆依頼の連絡先

授業と学び研究所 tamaoki.riti@gmail.com